

暑けれど佳き世ならねど生きようぞ

藤田湘子

いつの時代にも通用する「佳き世ならねど生きようぞ」である。

毎年、この世には、大小はあれど何がしかの災いが起こる。今年も、新型コロナウイルスの災禍により、世界中のいたる所で感染者や死者が増大し続け、未だにその対症薬すら開発できていない。しかし、仕事も学校も日常生活もやめる訳にはいかない。

平成十二年、湘子七十四歳の作。時の小渕恵三首相が四月一日に脳梗塞を発症。その後「五人組による密室談合政治」と批判されながらも、自民党清和会の森喜朗首相就任へと政局が動いた年。この句は、朝日新聞七月三十一日の「天声人語」にも引用され話題になった。

2000年（H12作）第十一句集『てんてん』 鑑賞・轍郁摩